

豊中市
toyonaka

高校野球発祥の地とよなか!

中核市

早くから郊外住宅地として発展し、快適な住宅都市、質の高い教育文化都市として着実な歩みを重ねています。

抜群の交通アクセスを誇るまち

大阪国際空港を通して30を超える都市と結ばれている豊中市は、多くの人や物、情報が行き交う拠点のまちです。阪急電鉄・大阪モノレール・北大阪急行など、交通アクセスも抜群です。

音楽が育ててくれる街

「音楽あふれるまち・とよなか」を掲げ、市内外に豊中市の音楽を魅力ある地域資源として発信するため、「とよなか音楽月間」を設けています。

学校数 ● 小学校38校 ● 中学校16校
● 義務教育学校1校

<https://www.city.toyonaka.osaka.jp/>

池田市
ikeda

人・自然・文化の調和するまち池田

「事始めのまち」として、いにしへの「織姫伝説」にはじまり、阪急阪神東宝グループの創業者「小林一三」や、世界初のインスタントラーメンの開発者「安藤百福」ゆかりの地である池田市は、北部は緑豊かな植木のまち、中心部は閑静な住宅地、南部は高速道路や空港のある交通の要衝という様々な顔を持ったまちです。「大阪みどりの百選」にも選ばれている五月山公園は、春は桜、秋は紅葉の名所で、夜景も素晴らしい。猪名川の清流とともに私たちの心をいやします。公園内には、世界一♡のある動物園「五月山動物園」があり、ワビーやアルパカ、珍しいウオンバットなどが飼育されています。特にウオンバットの「ワイン」は、2022年に33歳となり、世界最長寿のウオンバットとしてギネス記録に登録され、メディアでも紹介されるほど有名です。

ウオンバットって、日本ではあのパンダより飼育頭数が少ないらしい!

学校数 ● 小学校9校 ● 中学校4校
● 義務教育学校1校

<https://www.city.ikeda.osaka.jp/>

箕面市
minoh

地域の絆で守る地域の安全

「大阪で一番安全なまち」をめざし、全ての通学路や公園に防犯カメラを設置。その数は、約2,000台!設置前と比べて、子どもへの声かけなど不審者情報やひったくりなどが半減し、効果は抜群。また、防犯カメラ設置費用の補助もしているのので、自治会も地域にカメラを設置し、市民協働で防犯力を高めています。

学校数 ● 小学校12校 ● 中学校6校
● 小中一貫校2校

<https://www.city.minoh.lg.jp/index.html>

豊能町
toyono

人とみどりが輝くまち とよの

大阪府の北部にあり、北摂連山に囲まれた自然豊かなまち、「豊能町」。棚田が一面に広がり、川のせせらぎ、風の音が聞こえる「いなか」の顔と、整備された住宅地が続き、自然と調和した「まち」の顔を併せ持った町です。自然や立地に恵まれた環境のほかに、歴史も特徴的。かつてこの地はキリスト教信仰が行われ、キリシタン大名として名高い福者・高山右近の生誕地です。また、「豊能御影石」がとれる「石の町」として、史跡や石仏・石塔などが各地に残されています。

下記のイメージビデオ「とよのデイズ」をご覧ください。
<https://www.town.toyono.osaka.jp/page/page002396.html>

里山の風景 棚田 国蝶 オオムラサキ

学校数 ● 小学校4校 ● 中学校2校
(うち小中一貫教育校1校)

<https://www.town.toyono.osaka.jp/>

能勢町
nose

人・地域・地球の健康を守り 緑をつなぐ 開かれたまち能勢

能勢町は、大阪府の北端に位置し、豊かな里山の自然と歴史に恵まれて生命を育み、独自の文化を持つまちとして発展してきました。里山の自然資源や人間関係などの資源を基軸として、人と人、里山と街をつなぎ、自立的で魅力あふれるまちづくりを目指しています。

とりわけ、SDGsの達成に向け「地域資源が循環する里山未来都市の実現」を目指し、令和3年度に国から「SDGs未来都市」に選定されました。ゼロカーボントウンの実現や、里山資源の活用、健康長寿の取組、地域の魅力化に向けた人材の育成など持続可能なまちづくりの実現に取り組んでいます。

棚田風景 人形浄瑠璃「能勢三番叟」 大げやき

学校数 ● 義務教育学校1校

<https://www.town.nose.osaka.jp/>

ホームページ
home page

教員採用選考関係の情報をホームページで随時更新しています。

詳細はこちら

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

令和6年度(2024年度) 大阪府豊能地区公立学校

教員募集

出願期間 令和5年(2023年)4月3日(月)~4月28日(金)

選考職種 小学校教諭・中学校教諭・養護教諭

出願方法 インターネットによる電子申込

※詳しくは「令和6年度(2024年度)大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験案内」をご覧ください。

問合せ先 大阪府豊能地区教職員人事協議会事務局 採用グループ

〒561-8501 大阪府豊中市中桜塚3-1-1(豊中市役所内)

電話:06-6858-3341 ホームページ:<https://toyono-jinjikyoo.com/>

採用までの日程

<p>願書受付</p> <p>■電子申込(インターネット)</p> <p>令和5年(2023年)4月3日(月)~4月28日(金)</p> <p>※開始日は10時から、終了日は17時まで受付。</p> <p>※詳しくは「令和6年度(2024年度)大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト受験案内」をご覧ください。</p>	<p>第1次選考</p> <p>■筆答テスト 6月24日(土)</p> <p>■面接テスト 7月 1日(土) 2日(日) 8日(土) 9日(日) 15日(土)</p> <p>※上記日程のいずれか1日を指定します。</p>	<p>第2次選考</p> <p>■筆答テスト 8月19日(土)</p> <p>■実技テスト 8月19日(土)、21日(月) 22日(火)、26日(土) 27日(日)</p> <p>※校種教科により異なります。</p> <p>■面接テスト 8月23日(水)~9月中旬</p> <p>※期間内のいずれか1日を指定します。</p>	<p>2次結果発表 8月4日(金)予定</p> <p>1次結果発表 10月6日(金)予定</p>	<p>採用・辞令交付式</p> <p>12月下旬~2月下旬 予定</p>
--	---	---	--	--------------------------------------



豊中市
toyonaka

みらい創造都市とよなか ～明日がもっと楽しみなまち～



庄内地域に豊中市初の義務教育学校(2校)が開校します。

「つながる力」「まなぶ力」「つくる力」を基本として、やり抜くことで世界にはばたいていく子どもを育みます。令和5年(2023年)4月いよいよ庄内さくら学園が開校します。また、令和8年(2026年)に(仮称)南校が開校予定です。

教職員の働き方改革を推進

令和3年度(2021年度)にスクール・サポート・スタッフを市立学校全校に配置、勤務時間外の留守番電話対応、携帯電話の配備、学校行事の精選、定時退勤日の設定、学校閉庁日の導入等の取組を行い働きやすい職場環境づくりに努めています。



ICTを活用した「学び」の推進

GIGAスクール構想を推進するため、児童生徒用一人一台タブレットに加え、教員用タブレットの整備を進めるとともに、ICT支援員を市立学校全校に配置しています。

「マチカネ先生塾」及び教員サポートシステム

教員をめざす学生には「マチカネ先生塾」で、経験の浅い教員は、経験豊富な教職員育成支援指導員が授業力のサポートを行っています。



大学との連携 ～サウンドスクール事業～

大阪音楽大学との連携により「音楽が溢れる学校づくり」をすすめ、子どもたちが「生きた本物の音楽」に触れる教育を推進しています。

多文化共生

帰国・渡日や外国にルーツを持つ児童・生徒に対する様々な学習支援や居場所づくり等支援施策に取り組むとともに、互いに認め合い、尊重し合い、共に生きる多文化共生の視点での学びを進めています。また、ユネスコ・スクール参加校等は国内外の学校との協働授業に取り組んでいます。

とよの 大阪府豊能地区とは

大阪府の北西に位置する、豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町の3市2町を豊能地区と呼んでいます。大阪国際空港やJR新大阪駅に近接する成熟した都市部と、季節ごとにさまざまな表情を見せる魅力的な自然環境を併せ持った地区です。

豊能地区は全国で唯一、市町共同で教員採用選考を実施しており、毎年各地からここ豊能地区で先生になることをめざす、多くの方に志願いただいております。



選考職種 小学校教諭・中学校教諭・養護教諭

出願期間 令和5年(2023年)4月3日(月)～4月28日(金)

出願先 インターネットによる出願: <https://toyono-jinjikyo.com/>

※詳しくは「令和6年度(2024年度) 大阪府豊能地区公立学校教員採用選考テスト 受験案内」をご覧ください。

能勢町
nose

自分が好き 能勢が好き 仲間と共に 夢がいっぱい



義務教育学校 ～発達段階に応じた柔軟な指導・支援～

「もっと地域とともに」「もっとあたらしい学びへ」「もっとチームに」をスローガンに令和4年4月、義務教育学校へ移行しました。
9年間の学び・生活を効果的につないでいきます。

働きやすい環境

豊かな自然に囲まれ素直で元気な子どもたち、学校と協働する地域・保護者、あたたかい教職員集団、広々とした充実した学校施設。小さな町ならではの充実した教育環境のもと、**熱い「夢」を持つ子どもたち**を育成しています。

子どもの安心サポート

福祉との連携、SC・SSW等の多職種で構成するチーム学校、コミュニティ・スクールの取組、支援教育の充実、通級指導教室の開設など、学校×地域×行政で**一人ひとりの子どもを大切に**する教育を進めています。

体力向上サポート

大学と連携し、授業支援・体力向上プログラムやイベントを実施し、**元気でたくましい子どもの育成**に努めています。

学力向上サポート

ICTの活用推進、英語教育の充実(英語4技能テスト【5～9年】など)、能勢町学力テスト、能勢分校との連携など、様々な機会を設け、**確かな学力の定着**をめざしています。



池田市
ikedata

教育で人々が 「つながる!」まち、池田



～年齢・校種を越えて「つながる!」～

小中一貫教育の推進

中学校区を「〇〇学園」と呼称し、幼稚園などの就学前から義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進しています。校種を越えた異学年交流も盛んで、児童・生徒はもちろん、校種の違う教員同士もつながることができます。また、施設一体型の義務教育学校「ほそごう学園」では、1～9年生が学校生活を共にしています。

ICTの活用

全小・中・義務教育学校の各教室に電子黒板を整備し、児童生徒一人一台タブレット端末を導入。教員にもタブレット端末を貸与しており、授業や校務での活用方法の研究も日々行われています。



外国語教育の推進

小・義務教育学校に英語リーダー教員を配置し、1年生から6年生までの系統的な英語の指導を実践しています。また、教員を対象に、姉妹都市ローンセストン市(オーストラリア)への語学研修を実施し、現地の教育事情を学ぶとともに、現地校で指導者として授業を体験しています。

支援教育体制の充実

各学園に支援教育チームコーディネーターを配置。また、市立幼稚園に市独自の通級指導教室を開設し、個に応じた指導を進めています。



～学校の枠を越え、地域と「つながる!」～

地域社会との連携

学校、家庭、地域が協働し、子どもたちがいきいき活動できる「教育コミュニティづくり」を推進しています。また、公設民営の塾「ふくまるはばたき塾」では、子どもたちの家庭学習や自習のサポートを行っています。

ふくまる教志塾で人材の育成

池田の教員を目指す方に向けて、「ふくまる教志塾」を開塾し、「現場実習」と「セミナー」の二本柱で、教員としての資質・能力を育成しています。



箕面市
minoh

子どもたちの豊かな学力を育む、 最新の教育環境



情報教育の推進



ICTを活用した授業・保護者との連絡

箕面市では、全児童生徒に配備された1人1台のタブレット端末を使い、一人ひとりの課題に応じたドリルに取り組むなどして個別最適化された学習を進めています。また、学習支援ソフト「tomoLinks」を活用し、オンライン上でのプリント配布や回収を行うことが可能です。デジタル連絡帳を活用することで、児童生徒端末のみならず保護者のスマートフォンにも反映され、正確に迅速に連絡事項を伝えることができ、教員と保護者の負担を軽減しています。

「箕面の授業の基本」で指導のスタイルを確立

箕面版・授業の手引きを活用することで、すべての先生が子ども主体の課題解決型授業を展開しています。

英語教育の推進

箕面市内の全小・中学校の全学年で、英語の学習を毎日実施しています。さらに、各校でネイティブ(英語指導助手)とのチームティーチングを実施し、学校の授業だけで、高い英語力を身につけることができます。箕面から世界へ活躍できる子どもたちを育てています。



教員を孤立させない学校組織体制

様々な教育課題に対して、学校が組織として状況に応じた適切な対応を取っていく必要があります。指導力のある教員が、生徒指導や保護者対応、教材研究などに専従できるよう市独自の教員(授業支援員)を配置しています。

「ぴあ・カレッジ」で教員養成

箕面市の教員を志す学生および講師のかたを対象にセミナーを実施しています。「ICT教育」「授業づくり」「生徒指導」「支援教育」「人権教育」など様々な教育内容について学び、子どもたちの豊かな人生を切り拓くために必要な教員としての資質・能力を育んでいます。

豊能町
toyono

「豊かな自然」と「豊かな人材」を 活かし「豊かな子ども」を育てる



【めざす子ども像】豊能町に誇りを持ち、自信をもって社会を生き抜く子ども

地域とともにある学校

令和8年4月、東西それぞれに義務教育学校(2校)を設立し、新しい学びの段階「4・3・2制」を導入していきます。先行して、令和4年4月、東地区に施設分離型の小中一貫教育校「東能勢小中学校」を開校し、前期学部(1～4年)が小学校校舎、中・後期学部(5～9年)が中学校校舎で学校生活を送っています。



東能勢小中学校 開校式(中学校校舎)

保幼小中一貫教育の推進

0歳から15歳までの15年間の「学び」と「育ち」をつなぐ一貫した教育を推進し、「確かな学び」と「豊かな心」の育成、「グローバル人材」の育成をめざします。



合同理科授業(小・中の交流)



体育・運動あそび(保幼・小の交流)

*「グローバル人材」とは、グローバル(世界)とローカル(地域)を合わせた言葉で、どちらの視点も持てる豊かな人材のこと。



保体体験学習(保幼・中の交流)

「とよの未来科」の創設

地域資源を最大限活用した、豊能町だからこそ学べる「体験的・探究的な学習」を就学前から行います。「とよの」の宝物について学び、グローバルな視点で「豊能町の未来」のために自分たちでできることを考える学習を行っています。



生き物探し(初谷川)

「使える英語」の充実

就学前から、段階的に英語に慣れ親しませる体験的な活動を充実させ、「使える英語」をめざします。



就学前からの外国語活動